

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G303	経済政策論 I	3年	講義	2	今喜史
授業概要 経済が不景気に落ちこむことなく、安定して成長を続けることができるように、さまざまなマクロ経済政策が行われています。「経済政策論I」では、マクロ経済学の基本的な知識を応用することによって、財政政策、金融政策、経済成長政策という3つのマクロ経済政策のしくみや効果について詳しく分析します。とくに、アメリカや中国、ヨーロッパなど世界各国の採用しているマクロ経済政策と比較することを通して、日本の政策の特徴を明らかにします。なお、個々の産業にかかわるミクロ経済政策については、「経済政策論II」で議論します。					
到達目標(学習の成果) ①財政政策、金融政策、経済成長政策という3つのマクロ経済政策について、しくみや効果を説明することができる(DP3) ②日本のマクロ経済政策の特徴を、世界各国と比較しながら説明できる(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	マクロ経済政策の目的と手段	マクロ経済政策の概要を、大きく3つに区分して理解する			
2	マクロ経済を把握するための統計	国民経済計算(SNA)について復習し、世界各国のGDPを比較する			
3	マクロ経済の「短期と長期」	マクロ経済分析では、時間的視野によって分析手法を使い分けることを理解する			
4	短期のマクロ経済モデル	45度線モデルについて復習し、有効需要の原理をグラフで表現する			
5	財政政策① 政府支出	政府支出が増加すると、GDPが上昇するという乗数効果を理解する			
6	財政政策② 所得税	所得税の税率が上がると、短期的にGDPが低下することを理解する			
7	財政政策③ 財政収支	日本の財政赤字の現状を知り、世界各国の財政状況と比較する			
8	日本銀行と利子率	金融の基本的な考え方を復習し、利子率とマクロ経済の関係を理解する			
9	金融政策① 伝統的な金融緩和	利子率が低下すると、短期的にGDPが上昇することを理解する			
10	金融政策② 非伝統的な手段	ゼロ金利のもとでの金融緩和政策の手段と効果について議論する			
11	金融政策③ 国際金融	利子率と為替レートとの関係を理解し、金融緩和政策の効果について理解を深める			
12	金融政策④ 世界各国との比較	ヨーロッパの通貨統合、中国の資本規制に注目し、日本の金融政策と比較する			
13	長期のマクロ経済モデル	長期的な経済成長の決定要因について、成長会計の手法で分析する			
14	経済成長政策	安定的な経済成長を実現するための政策について、日本と世界各国を比較する			
15	講義のまとめ・マクロ経済政策	3つのマクロ経済政策について復習し、それぞれの意義を自分なりに整理する			

準備学修(授業外の自己学修)

毎回の講義内容について、ノートなどでじゅうぶん復習をしてから、次の週の講義に出席するようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(80%)、宿題(20%)

観点	S	A	B	C
マクロ経済政策の手段と効果について、経済モデルに基づいて理解しているか(DP3)	非常によく理解している	よく理解している	ある程度は理解している	最低限は理解している
日本のマクロ経済政策の特徴を、世界各国と比較して説明できるか(DP3)	非常によく説明できる	よく説明できる	ある程度は説明できる	最低限は説明できる

教科書

特に指定しません。

講義で使用するプリントなどの資料は、すべて教室で配布します。

参考書等

福田 慎一、照山 博司(著)、『マクロ経済学・入門(第5版)』、有斐閣、2016年、本体2200円。

平口 良司、稲葉 大(著)、『マクロ経済学 入門の「一步前」から応用まで一』、有斐閣、2015年、本体2000円。

履修上の注意・学修支援

事前に「マクロ経済学I」を履修していると、この講義の内容も理解しやすいと思います。

期末試験は、すべての回の講義内容を理解していることを前提に、「持ち込み不可」で行います。